

- ✓ 35アッシュ丸棒ブラックのご紹介
- ✓ 理学療法士からみた手すりハ
- ✓ ちょっと気になるサステナビリティ

BAUHAUS
Select Series
35セレクトシリーズ
ブラック

35アッシュ丸棒に
ブラック色が
新登場!

NEW

35セレクトシリーズのブラック色の
ブラケットと組合せて、モノトーンの
手すりはいかがですか?

ブラケットも手すり棒も、
黒が映えるモノトーンの暮らし。

BLACK
and
BLACK

ブラック色の手すり棒に
ブラウン・ゴールド・シルバーの
ブラケットを組合せても。

艶消しブラック
仕上げのブラケットは
定番の手すり棒とも
相性抜群!

35セレクトシリーズ ブラックの詳細はコチラから▶

https://www.mazroc.co.jp/selectseries_black/





“たよレールUPDATE”を 寝返りから起き上がりで活用する

“たよレールUPDATE”をお勧めするなら、まずは立ち座りが苦手な方になります。特にドスンと尻もちをつくように座る方には、脊椎圧迫骨折を引き起こさないように今すぐ提案してください。それでも脊椎圧迫骨折が起こってしまった方は、体幹を捻じると痛みが生じるため寝返り動作や起き上がり動作でも“たよレールUPDATE”を活用することをお勧めします。

脊椎圧迫骨折はほとんどの場合、手術ではなくコルセットなどの保存療法が選択されます。大腿骨の骨折のように手術で固定することや人工関節に入れ替えることができれば早期から身体を動かせますが、脊椎圧迫骨折ではコルセットを巻いて体幹を固定し骨折が治癒するまで時間の経過を待つためベッドで寝ている時間が長くなります。さらに、体幹を捻ったときに生じる痛みは1か月以上続くため、痛みが発生しないように寝返りから起き上がることが寝たきりの予防につながります。

寝返り動作のポイントは、「上部体幹と下部体幹の捻じれ(体軸内回旋)」にあります。例えば右側に寝返るときには、左手が身体をまたぐように右側へ伸ばすことで左肩甲骨を前に突き出します。伸ばした左手によって左肩が右肩の上に重なり、十分な体幹の捻じれ(体軸内回旋)が得られます。そこからさらに身体を前に倒して、肘と手のひらでベッドを押しながら身体を起こすことで、腰背部への負担を減らした起き上がり動作ができます。しかし、高さのある手すりでは左肩甲骨を突き出す前に手すりをつかめるため、身体が斜め45度の半側臥位の状態で止まり、そこから起き上がると腹筋に大きな負荷がかかり腰背部に痛みが生じます。寝返り動作は起き上がり動作の準備動作です。ただベッドで横を向くだけでなく、肘と手を使って身体に負

担がかからないように起き上がるまでが手すりに求められる役割です。

脊椎圧迫骨折などの場合、治癒すれば歩くことができるため要支援や要介護1の認定を受けることが多くなります。その場合、介護用ベッドのレンタルが難しくなるため、今まで寝ていたベッドに“L字のたよレールUPDATE”を設置するのがお勧めです。ベッドと平行な手すりは寝返りと起き上がり動作をサポートし、ベッドと垂直な手すりは立ち上がり動作で身体を押し上げるサポートになります。座るときにも必ず手すりを把持してドスンと座らないように注意しましょう。

高さが低い手すりは立ち座りの動作だけでなく、寝返りや起き上がり動作でも活用できます。気をつけていても起こってしまった圧迫骨折のときには、寝返りや起き上がり動作でも手すりに手を伸ばし、少しでも身体の負担を減らして起き上がることで寝たきりにならないように支援してください。



上部体幹と下部体幹が捻れる体軸内回旋



肩甲骨を前方へ突き出し、左肩が右肩の上に重なる



肩甲骨が十分に前方突出できず寝返り動作が完成しない

ちょっと気になる

サステナビリティ 10

皆さんは「CDP」という団体を聞いたことがありますか？

私たちは先日、取引先である大手ハウスメーカー様からのご依頼で、このCDPが求める「気候変動に関する質問書(中小企業版)」に回答しました。



CDPとは、企業が取組む環境対応情報を集め、開示を促す国際的な非営利団体で、簡単に言えば「企業の環境通信簿」を作る活動をしています。弊社もSBT(科学的根拠に基づいた削減目標)の基準に沿って温室効果ガス削減を進めていますが、CDPは企業の回答データを通してSBTの進捗を把握するといった協力関係にあります。正直、「大企業のサステナビリティ部門がやる話」と感じる質問もCDPには多い中で、「事業インパクト評価」に関する質問は、私たち中小企業にも直結する身近な問題になってきています。

CDPの質問は、「環境課題によって生み出されたリスクと機会が、貴組織の戦略や財務計画にどのような影響を与えましたか?」というものです。これは、自社の事業が地球環境に与える影響だけでなく、環境変化が事業にどんな影響を及ぼすかを問うものです。具体的に考えておくべきは、主に次の3点です。

This month's theme

気づけば身近になった非財務情報開示の波：CDPが問う「事業インパクト」

- ①【環境規制リスク】 将来、国や自治体で「炭素税」のような新しい税金が導入された場合、コストがどれくらい増えるかと想定しているか？
- ②【物理的リスク】 地球温暖化による豪雨や猛暑、地震などの自然災害が増えたとき、自社の倉庫や工場が影響を受け、事業がストップするリスクは？
- ③【市場機会】 省エネ製品や環境に優しい新技術を開発することで、新しい取引先や市場を獲得できるチャンスがあるか？

CDPの質問は地球環境に関する内容ですが、広義で捉えると、どんなリスクやチャンスを想定して企業経営しているかを問う「企業の健康診断」とも言えます。

人間にたとえるなら、人生のリスクに備える損害保険の検討に似ています。闇雲に高額な保険に入るのではなく、実際に事故が起きる確率や、起きた場合に支払える能力を天秤にかけて検討するのです。

数あるリスクや機会の重要度を整理することは、決して楽な作業ではありません。

しかし、弊社も非財務情報の開示という潮流を「いざという時の備え」と捉えて、会社の未来のために前向きに検討していきます。

